

～深川の町並みと歴史を探访する～

## 深川歴史散策 “半日観光”

期 間：2013年6月4日（火）

集合午後1時 解散午後5時05分

費 用：入館料、資料代など1,000円  
（現地集合・解散）

参加者：14名

役 割：リーダー神山清英、サブリーダー小澤信也  
受付・資料配布 野田恭子、田辺年隆  
懇親会 國分光洋

### 阿茶の局の菩提寺「龍徳山雲光院」での 記念写真

阿茶の局の碑を横に見ながらの撮影です。総勢14名、天候に恵まれ皆さま笑顔！笑顔！でした



### 散策の順路と訪れたところ

歴史散策ですので、江戸末期の地図を参照しながら、七福神巡りの順路に沿い、またその途上にある歴史に由来する場所も訪れました。

梅雨の中休みの好天に恵まれ、しかも心地よい涼風があり、まことに快適でした。実地踏査結果の報告です。

順路は、「深川七福神ホームページ」に掲載されている一筆書きに基づきました。

起点は地下鉄の森下駅で、当日の午後1時に集合し、終点は成田山新勝寺の近くの地下鉄門前仲町で、午後5時5分でした。歩いた歩数は1万2,000で、よい運動でした。



江戸末期の切絵図  
大きな寺の存在と縦横に  
走る運河が目立つ

### 七福神めぐりの順路

現在の地図に、森下起点の七福神探訪の順路を記載したもの



訪れた箇所と順路は次の通りです。

地下鉄森下駅 A7 出口集合⇒深川神明宮（寿老人）⇒芭蕉記念館 入館料 200 円（芭蕉自筆の奥の細道の写し多々あり）⇒隅田川河畔（元禄 15 年 12 月 15 日吉良邸討入り後泉岳寺に戻る途中の義士が歩いた道）⇒芭蕉庵史跡展望庭園（隅田川、小名木川、清洲橋と対岸の建物群を一望）⇒中川船番所跡⇒万年橋（小名木川）⇒相撲部屋（高田川部屋、尾車部屋）⇒深川稲荷神社（布袋尊）⇒清澄庭園⇒松平定信墓、江戸六地藏（靈巖寺）⇒深川江戸資料館 入館料 400 円（午後 2 時半～3 時 15 分）⇒阿茶の局の墓所（雲光院）⇒龍光院⇒間宮林蔵墓の碑⇒関東大震災の碑（浄心寺）⇒円珠院（大黒天）⇒木更木橋（仙台堀川）⇒冬木弁天堂（弁財天）⇒冨岡八幡宮（恵比寿神、金比羅宮、富士浅間社、鹿島神宮、伊能忠敬像）⇒成田山新勝寺⇒地下鉄門前仲町散策終了⇒懇親会（門前茶屋のあさり蒸籠めし）⇒番外あり（浅草にて二次会）

七福神の一人心行寺福祿寿（人望福德）は、次回のお楽しみに回しました。

### 掘割の橋あれこれ

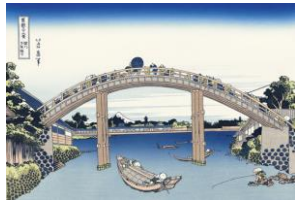
深川には、真っすぐで平坦な道と縦横に走る掘割があります。掘割は運河であり、江戸の切り絵図を眺めると計画的に開拓された様子がわかります。運河は文字通り、江戸時代の主要運搬手段でした。南北には大横川、横十間川、そして北十間川、仙台堀川、堅川、小名木川が東西に連なり、今も風情を残しています。小名木川は、芭蕉



大黒天（円珠院）

庵史跡展望公園の付近で隅田川につながっています。これにより銚子付近から利根川を通じて、江戸内まで水運の経路が繋がっていました。

運河に掛かる橋が多いことも特長です。小名木川が、隅田川に接続するほんの少々手前に万年橋があります。ここには、船の出入りを監視する番所があったと案内板がありますが、水運の物流を管理していたようです。この万年橋のたもとから、伊豆諸島への流罪人を流人船で送り出した歴史もあります。



深川万年橋 広重

この運河の水面は天井川の趣があり、道路が橋に向かって上り下りします。江戸時代に橋の下を荷物を満載した船が自由に通過できるよう、もともと橋げたを水面から高く構築してあったことも起因しています。万年橋の隣にある小名木川に架かる橋に「高橋」という橋がありますが、橋の名前が体を表しています。

### 町名のおこり

この付近の町名には江戸時代から変わらず続いているものが多く、そのことを町筋を散策しながら確認しました。江戸幕府開府前から開発に携わった方の名前に因んで町名がつけられたものが多くありました。

慶長の初期（1596～1614）、江戸がまだ町づくりを始めたばかりのころ、深川八郎右衛門という人が、摂津国（現・大阪府）から移住して、小名木川北岸一帯の開拓を行い、この深川の苗字を村名としました。清澄という町名は、寛永6年(1629)ころ、この一帯の干潟を開拓した獵師町開拓8人の1人、清住弥兵衛に因んだものといわれています。白河楽翁（白河藩主・松平定信の号）にちなんで町名がつけられたのが、白河です。寛政の改革で名高い松平定信（1758～1829）の墓所がこの地の靈巖寺にあります。

### 赤穂浪士討入りからの引き揚げの道

赤穂浪士討入りの場所は、本所松阪町の吉良上野介邸です。現在の回向院に敷地が続く屋敷でした。討入り後、永代橋を通過して高輪泉岳寺に引き揚げる際に通ったのが、当時大川といった現在の隅田川の左岸、つまり芭蕉記念館のある側です。芭蕉が伊賀上野でこの世を去ってから10年ほど後のことです。江戸の地図を見ると、隅田川河畔には大きな武家屋敷が塀を連ねて並んでいて人目が少なく、目立たず引き揚げるには格好の通り道だったと想像できます。

### 伊能忠敬と間宮林蔵のこと

深川に住まいを構え、日本全国の測量に出立の際は、安全祈願として富岡八幡宮に参拝をしたという伊能忠敬、この大きな像が参道左にあります。千葉県佐倉の人で、隠居後に「実測」での「伊能大図」全214枚を作成するという大事業を成し遂げました。寛政の改革をした徳川家斉十一代将軍の時代のことです。距離測定用の量程車などの機材は、当時の科学として最新のものだそうです。地図作成技術を習得した意欲と17年をかけて実現した強い意思に敬服します。

この伊能忠敬の弟子に、間宮林蔵がいます。七福神の一つ龍光院を通り過ぎ、少し進んだ道路に碑がありました。樺太は大陸と海を隔てた島であることを、実地踏査で確認しています。十二代徳川家慶の時代の歴史的事跡です。

## 深川散策に参加して

ご参加の方々からの感想文をいただきました。到着順に掲載いたします。同じ場所・同じ時間を共有しましたが、それぞれの方々の興味を引いたところが、それぞれでした。これが、この企画の特徴であり、当日の懇親会の話題の楽しみの一つになっています。

國分光洋 会員 杉並区

都鳥 櫓の音絶へし 隅田川  
口に含む あさり蒸籠や 江戸の味

空梅雨の午後、大江戸線の森下に集まり14人の



屋台で食べるそば、うどん、寿司に天ぷらは現代のファーストフード。「夜鳴きそば客 振り向けばのっぺらぼう」の怪談多数あり。

江東区深川散策です。地下鉄森下駅から地上に出たの驚きは「海拔0.8メートル」の表示です。仙台掘川と大横川に挟まれた隅田川左岸の深川と隣接する門前仲町は、埋立地で海面すれすれということです。

最初に深川神明宮を訪ね、次に芭蕉記念館と芭蕉庵史跡展望庭園を訪ねます。庭園脇の小名木川は野田、利根川に水路を求め江戸に食糧を運んだ水運でした。

その江戸っ子の食べ物は鮎、蕎麦、鰻、天ぷらで上方から来た食物です。初め鮎は圧鮎で、客の顔を見て「ただいまできます」といってから3時間ぐらいか

かりました。その庄館に代わり、与兵衛翁が考案したのが現在に続く「握り鮓」で、深川が発祥地です。

また、天ぷらの名の由来は、大阪から天竺浪人のようにぷらりとやってきた食客が伝えた調理法だからというので、山頭京伝（江戸後期の戯作者）が命名し、天麩羅の三文字を当てたという話です。

深川散策は七福神と精霊である深川八郎右衛門・与兵衛翁・芭蕉翁・松平定信・滝沢馬琴・阿茶の局・紀伊国屋文左衛門・間宮林蔵・関東大震災被災者・伊能忠敬・歴代横綱を巡る鎮魂の旅でもあります。

散策のメは深川不動門前にある門前茶屋で草鞋を脱ぎ、皆であさり蒸籠めしを食べました。

### 村上紀子 会員 所沢市

梅雨時とは思えない暑い1日、WSCの日帰り企画に参加させていただき、下町情緒を楽しんでまいりました。事前に整えられた資料はとても詳しいもので、幹事さんのご苦労がしのべれます。

心配した真夏のような日差しも、後半は涼しい風も吹き始め、また「芭蕉記念館」「深川江戸資料館」など、屋内の施設に入館して涼んだりしたので、思っていたほどの暑さは感じられませんでした。

それでも最後に皆さんで乾杯した生ビールは、のどが潤っていたせいかととてもおいしかったです。普段アルコールは飲めない私にも感激の味でした。

現代の高層建築で埋め尽くされているように思える東京も、探してみれば江戸の風情を残す地域が思った以上に残っているのですね。大切に守っていききたいものと思いました。

楽しい1日をありがとうございました。



庶民の暮らしぶりを忠実に再現した珍しい資料館。土間に揃えた草鞋は子供みたいに小さいのが江戸っ子の粋に通じる。



弁財天（冬木弁天堂）

### 村上真瑛子 会員 板橋区

神山さん、小澤さんにより、深川七福神巡り。寿老人、芭蕉庵、清洲橋と万年橋、布袋尊、深川稲荷神社、清澄庭園、深川資料館、阿茶の局の墓、毘沙門天、大黒天、松尾芭蕉記念館、福祿寿、弁財天、恵比寿神、深川不動妙王と巡り、門前茶屋にて「深川あさり蒸籠めし」をいただく。この美味しいこと想像以上。他に種々いただくおつまみの数々もまた格段と美味しい。

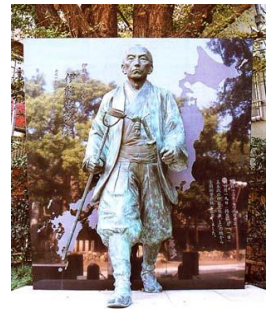
みな、お腹一杯なので、あさりめしは全員半分ずつ。うまいよ！！満足して解散。ありがとう、満足～

### 野田恭子 会員 昭島市

#### “地球の大きさを知りたい！”

深川富岡八幡宮大鳥居の傍らに、55歳の伊能忠敬の銅像がありました。方位盤を握った、まさに測量への一步を踏み出す勇姿です。

忠敬は50歳の時に千葉佐倉での家業を長男に譲り、江戸に出てきます。念願の天文学を本格的に学ぶためです。天文学の第一人者高橋至時の門を叩きます。このとき至時32歳、忠敬51歳。200年以上も前の50歳って今だったら何歳でしょう。大方の人はご隠居さんです。さすがのWSCのメンバーも真っ青と言ったところでしょうか。



富岡八幡  
伊能忠敬銅像

儒教の時代、20歳も年下の者に教を乞うなど、考えられませんでした。しかし忠敬は燃える向学心のためには、そのようなことは全く頓着しませんでした。

地球の大きさを知りたい！1800年55歳の忠敬は江戸を出発。歩幅が一定になるよう訓練し、歩数の平均値を出し、距離を計算する実測が始まります。富岡八幡宮の近くの黒江町（門前仲町）に住んでいた忠敬は出発の際は必ず、八幡宮に参詣し、無事成功を祈念して歩き出しました。蝦夷地測量への第一歩です。

3年後東日本の測量を終えた忠敬は江戸に戻り、地球の大きさの計算に取り組みました。この時に彼が出した数値は、現在の地球の外周と千分の一の誤差しかなかったのです。

1815年60歳で、再び江戸から西日本の測量に出かけます。すべての測量を終えた時忠敬70歳。15年以上かけて歩いた距離は4万キロ、実に地球を一周したことになります。

#### “ニッポンを歩こう”

平成の伊能忠敬100万人が歩きました。2年をかけた全国踏破の旅です。

1998年1月25日、日本一周1万キロ、実測による日本地図作りに挑戦した伊能忠敬の足跡を辿る伊能ウォークが深川をスタート、2年後2001年1月1日、日比谷公園にゴール。

忠孝のあくなき探究心、恐るべき頭脳と体力は、中

高年の我々が学ぶべきことを、身をもって教えてくれた気がします。

### 田辺年隆 会員 船橋市

このところ梅雨入り宣言も気象庁が早まったかと思われるように、やや暑く晴れた天候でした。

森下駅から始まった深川歴史散策の旅は、神山さんや小澤さんの用意していただいた資料をもとに古地図と現代風景を比べながら、私としては何度目かの深川を楽しみました。

途中立ち寄った、芭蕉記念館や深川江戸資料館は興味深い展示物で、皆さんつい時間を忘れて長居をし、



吾妻橋の川面を流れる観光船の灯りはいつまで眺めても時間を忘れる。その先の川向こうに見えるスカイツリーは移り変わる光のオブジェ。

リーダーから促されて先に進むような事態でした。

特に休憩も兼ねた江戸資料館で、当時の町並みを再現した「表通り」、「堀割」、「長屋」では、ボランティアの方の説明を受けて、室内に上がり込んだりしながらタイムスリップ

したように時の経つのを忘れました。

解散した後、食事会でのビールの味とあさり蒸籠めしは格別でした。つついとお酒が進み、さらに有志での浅草二次会となりましたが、ライトアップしたスカイツリーが綺麗でした。

### 笹野美代子 会員 調布市

お友達から「今日の紫外線は覚悟が要りそうよ」と朝メールが届いた。

よしそれなら黒い傘、帽子、サングラス、手袋、顔にはしっかり日焼け止めクリームを塗り、完璧にガードして家を出た。3年前には、大江戸線で深川あたりを回った。名リーダーの案内が誠に表現力豊かでいろ

いと説明してくださったが、全部は頭に入りきれなかった。もったいない。芭蕉記念館では、松尾芭蕉に関する文献資料がたくさんあり興味深かった。ちょっと前から、普段持たない筆で「奥の細道の旅跡を追っている。また、国から集めたという名石は多さに驚いたのを思い出す。阿茶の局の墓（徳川家康



茶屋料理は江戸前の魚の干物や茄子や鶏を炭火で焼いて客をもてなす。酒を酌み交わしながらワイワイ愉しく遊べる江戸の居酒屋。

の側室)も、随分変わった形をしていた。

小沢さん作成の写真集「深川七福神めぐり」がとても役に立ちました。

リーダーに「美味しいあさりご飯が食べたい」とお願いしたら、深川の雰囲気が漂うお店でとても絶品のあさり蒸籠めしを食べさせていただき嬉しかったです。



門前茶屋のあさり蒸籠めし

心配したほどの暑さではなく、風も爽やか、足取り軽く気持ちの良い深川散策でした。有難うございます。

### 小野 孝 会員 流山市

今回は森下から清澄、門仲へと「いき」と「いなせ」をめぐる散歩道です。その辺のまとめは、我らのリーダーであり歴史家の口上が、蒸し暑さを忘れさせてくれました。

今も昔も、深川の八幡様として親しまれ、たくさんの信仰を集めている富岡八幡宮、日本最大ともいわれるあの神輿。沿道からの水を浴びながら進む神輿は大変な迫力です。

何度かこのあたりを歩いていますが、いつもと違いマップとガイド付きでは随分と見識が違い、周りの景色も目新しく感じます。

伊能忠敬が八幡宮を参拝して測量隊として出発。大願成就をおさめたのも何かこのあたりの陰の力があるやも知れません。また、江戸相撲発祥の地であり、歴代横綱の名が印字されており、私たちの散歩の数日後に当代横綱・日馬富士の手数入りがあり、刻字完成披露をしたと聞いています。

強く印象深いところばかりになりましたが、とても面白く勉強になり、目からうろこの連続でした。浅草の二次会に参加できず残念でした。次回を楽しみにしています。



福祿寿（心行寺）

福德、人徳、長寿の道教の神様で、南極星の化身（今回パス、次回のお楽しみ）七福神巡りは江戸の小さな遊び。行く先々で甘味を楽しんだ。

写真提供：小澤信也、田辺年隆

構成：野田恭子

キャプション：國分光洋

企画・構成：神山清英